

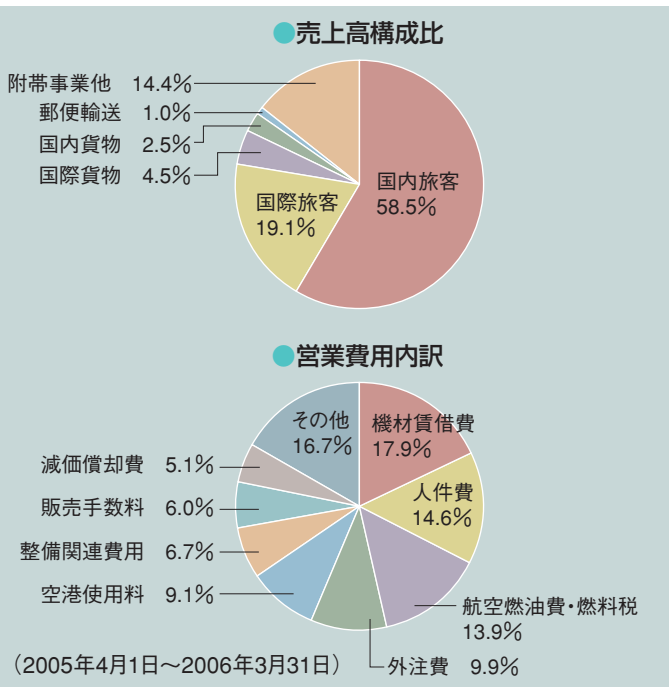
個別財務諸表

ANA (個別)

貸借対照表			(単位 億円)	
	当期 (2006年3月31日現在)	前期 (2005年3月31日現在)		
資産の部				
流動資産	4,545	3,371		
固定資産	10,504	10,115		
繰延資産	6	1		
資産合計	15,056	13,488		
負債の部				
流動負債	3,987	3,659		
固定負債	7,737	7,818		
負債合計	11,724	11,477		
資本の部				
資本金	1,600	1,072		
資本剰余金	1,253	736		
利益剰余金	391	160		
その他有価証券評価差額金	90	44		
自己株式	△ 4	△ 3		
資本合計	3,331	2,011		
負債・資本合計	15,056	13,488		

損益計算書

	当期 (2005年 4月 1日から 2006年 3月31日まで)	前期 (2004年 4月 1日から 2005年 3月31日まで)
営業収入	11,710	11,004
営業費用	11,014	10,361
営業利益	695	643
営業外収益	134	285
営業外費用	322	404
経常利益	508	524
特別利益	167	15
特別損失	205	296
税引前当期純利益	470	242
法人税、住民税及び事業税	143	306
法人税等調整額	45	△ 168
当期純利益	281	104
前期繰越利益	93	56
当期末処分利益	374	160



利益処分

	当期
(1) 当期末処分利益の処分	
当期末処分利益	374
特別償却準備金取崩額	2
合計	377
これを次のとおり処分いたしました。	
配当金(1株につき3円)	58
任意積立金	3
合計	61
次期繰越利益	315
(2) その他資本剰余金の処分	
その他資本剰余金	303
これを次のとおり処分いたしました。	
その他資本剰余金次期繰越高	303

特別償却準備金は、租税特別措置法の規定に基づくものです。

2007年3月期業績見通し

2007年3月期の業績予想について(2006年4月1日～2007年3月31日)

- 当面航空需要は堅調に推移していくことが見込まれる中、連結売上高1兆4,200億円(前年同期比513億円増)を見込んでいます。
- 燃油価格は今後も高騰することが懸念されており、航空部門の営業費用を圧迫する要因となると予想されること等から、連結営業利益は760億円(前年同期比128億円減)となる見通しです。ただし、2006年3月期のように減損会計による特別損失計上の予定がないこと等から連結当期純利益は270億円を見込んでいます。

※算出にあたりましては、米ドル円為替レートを115円、航空燃油費の一指標でありますドバイ原油の市場価格を1バレルあたり55米ドル、シンガポール・ケロシンを1バレルあたり74米ドルとしております。

■連結業績見通し				単位:億円
	2007年3月期 (予想)	2006年3月期 (実績)	増減額	
連結売上高	14,200	13,687	513	
連結営業利益	760	888	△ 128	
連結経常利益	475	667	△ 192	
連結当期純利益	270	267	2	

■個別業績見通し				単位:億円
	2007年3月期 (予想)	2006年3月期 (実績)	増減額	
売上高	12,300	11,710	589	
営業利益	620	695	△ 75	
経常利益	375	508	△ 133	
当期純利益	225	281	△ 56	

■連結業績予想の前提			
2007年3月期		国内線	国際線
提供座席キロ	前年比	100.5%	104.8%
旅客キロ	前年比	97.7%	100.1%

※上記の予想は本報告書作成時点(6月10日)において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本報告書作成時点における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

Q & A

Q 2007年3月期に連結営業利益が減益になるのは?

A 主に燃油費が前期に比べて、大幅に増加する見込みのためです。
当社が航空燃料価格の指標としているドバイ原油価格が2005年3月期は期中平均\$36.6でしたが2006年3月期は同\$53に上昇、以後も下落の兆しが見えないため2007年3月期は\$55で予算を作成しています。6月10日現在、更に上昇し、\$60を超える水準で推移しており、2006年3月期に比べ燃油費は450億円程度増加する見込みです。当社としては、調達価格を平準化させるためのヘッジを引き続き行うとともに、グループをあげてより踏み込んだコスト削減と増収に向けた努力を行ってまいります。自助努力により賄い切れない分につきましては、国際線は昨年3月より、国内線は本年4月より、その一部をお客様にご負担いただいております。

Q 燃油費の増加に対応した具体的な取り組みは?

A 以下の項目について引き続き取り組みを強化していきます。

- エンジンの使用にともない、エンジンの中に埃が溜まることで性能が劣化し、燃費が悪くなります。定期的なエンジンの内部洗浄を徹底することで性能を向上させ、燃費の向上に繋がります。
- 最適な飛行高度や速度により、燃費を向上させ燃油の消費量を節減していきます。
- 機内の座席をはじめ、搭載されている皿・コップなどの軽量化に取り組んでいます。
- 中期経営戦略では大型機の退役を早め、より燃料効率がよく、経済性の高い新機種(ボーイング737-700型機・ボーイング787型機)を積極的に導入していきます。